

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第5区分

【発行日】平成24年3月1日(2012.3.1)

【公表番号】特表2011-521115(P2011-521115A)

【公表日】平成23年7月21日(2011.7.21)

【年通号数】公開・登録公報2011-029

【出願番号】特願2011-509029(P2011-509029)

【国際特許分類】

D 0 6 M 13/368 (2006.01)

D 0 6 M 13/256 (2006.01)

D 0 6 M 13/432 (2006.01)

D 0 6 M 13/144 (2006.01)

D 0 6 M 13/165 (2006.01)

D 0 6 M 13/53 (2006.01)

D 0 6 M 101/34 (2006.01)

D 0 6 M 101/36 (2006.01)

【 F I 】

D 0 6 M 13/368

D 0 6 M 13/256

D 0 6 M 13/432

D 0 6 M 13/144

D 0 6 M 13/165

D 0 6 M 13/53

D 0 6 M 101:34

D 0 6 M 101:36

【手続補正書】

【提出日】平成24年1月16日(2012.1.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

本発明は、水溶液またはエマルションの形態の組成物に関するものであり、当該組成物は、

(a) 一般式： $N X_1 X_2 (C_n H_{2n} O H)$  で表される1種以上のヒドロキシアルキルアミン(式中、 $X_1$  および  $X_2$  は、互いに独立して、水素またはヒドロキシアルキル基であり、 $X_1$  の前記ヒドロキシアルキル基は一般式： $C_{(n1)} H_{2(n1)} O H$  で表され、 $X_2$  の前記ヒドロキシアルキル基は一般式： $C_{(n2)} H_{2(n2)} O H$  で表され、 $n$ 、 $n_1$  および  $n_2$  は2~6の整数である)と、

(b) アルキルサルフェート(alkyl sulfates)；アルキルスルホネート(alkyl sulfonates) (パラフィンスルホネート)；アルキルアリールスルホネート(alkylaryl sulfonates)；アルキルエーテルホスフェート(phosphates d'alkylether)；およびアルキルカルボキシレート(carboxylates d'alkyle)；から選択される1種以上のアニオン性界面活性剤と、を含み、

さらに、下記(c) および/または(d)の化合物の少なくとも1つ含んでいる。

(c) 一般式： $R_1 R_2 N (C S) N R_3 R_4$  (式中、 $R_1$ 、 $R_2$ 、 $R_3$ 、 $R_4$  は、互いに独立して、水素または炭素数1~5の炭化水素基である)で表される1種以上のチオ

尿素（チオカルバミド）。

（d）メタノール；イソプロパノール；グリコール類（好ましくは、グリセロール、エチレングリコール、プロピレングリコール）；またはグリコールエーテル類（好ましくは、エチレングリコールエーテル、プロピレングリコールエーテル）から選択される１種以上の凍結防止剤と組合された、１種以上のジアルキルスルホサクシネート(sulfosuccinates de dialkyl)。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

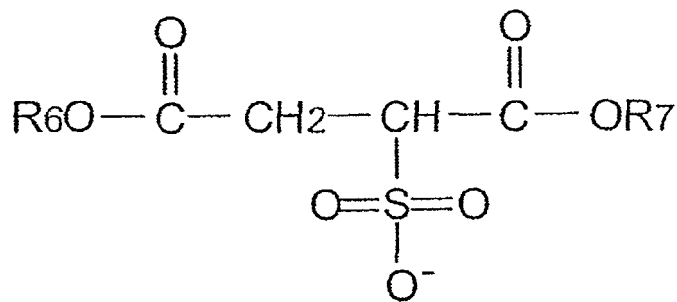
【補正対象項目名】００６４

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００６４】

【式１】



（式中、 $R_6$  および  $R_7$  は、互いに独立して、炭素数 6 ~ 22、好ましくは炭素数 6 ~ 12 のアルキル基を表す。）

【手続補正３】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項１】

水溶液またはエマルション形態の組成物であって、

（a）一般式： $\text{N}X_1X_2(\text{C}_n\text{H}_{2n}\text{OH})$  で表される１種以上のヒドロキシアルキルアミン（式中、 $X_1$  および  $X_2$  は、互いに独立して、水素またはヒドロキシアルキル基であり、 $X_1$  の前記ヒドロキシアルキル基は一般式： $\text{C}_{(n1)}\text{H}_{2(n1)}\text{OH}$  で表され、 $X_2$  の前記ヒドロキシアルキル基は一般式： $\text{C}_{(n2)}\text{H}_{2(n2)}\text{OH}$  で表され、 $n$ 、 $n_1$  および  $n_2$  は 2 ~ 6 の整数である）と、

（b）アルキルサルフェート；アルキルスルホネート（パラフィンサルホネートなど）；アルキルアリアルサルホネート；アルキルエーテルホスフェート；およびアルキルカルボキシレート；から選択される１種以上のアニオン性界面活性剤と、を含み、

さらに、下記（c）および/または（d）の少なくとも一つの化合物を含む、組成物。

（c）一般式： $\text{R}_1\text{R}_2\text{N}(\text{CS})\text{NR}_3\text{R}_4$ （式中、 $\text{R}_1$ 、 $\text{R}_2$ 、 $\text{R}_3$ 、 $\text{R}_4$  は、互いに独立して、水素または炭素数 1 ~ 5 の炭化水素基である）で表される１種以上のチオ尿素（チオカルバミド）。

（d）メタノール；イソプロパノール；グリコール類；またはグリコールエーテル類から選択される１種以上の凍結防止剤と組合された、１種以上のジアルキルスルホサクシネート。

【請求項２】

請求項 1 において、化合物 (c) が、EDTA (エチレンジアミン四酢酸)、NTA (ニトリロ三酢酸)、DTPA (ジエチレントリアミン五酢酸)、ホスホン酸、グルコン酸、ホスホネート、グルコネート、およびポリアクリレートから選択される1 種以上の金属イオン封鎖剤を含む、組成物。

【請求項 3】

請求項 1 または 2 において、成分 (a) を 1 ~ 15 重量%、成分 (b) を 10 ~ 50 重量%、成分 (c) および / または成分 (d) を 3 ~ 15 重量%、水を 75 重量%未満含む、組成物。

【請求項 4】

請求項 2 または 3 において、1 種以上の金属イオン封鎖剤を組成物中に 0.2 ~ 2 重量%含む、組成物。

【請求項 5】

請求項 1 から 4 のいずれか一項において、1 種以上のヒドロキシアルキルアミン (a) が、 $X_1$  および  $X_2$  が水素を表し、 $n$  が 2 ~ 6 の整数を表す化合物である、組成物。

【請求項 6】

請求項 5 において、1 種以上のヒドロキシアルキルアミン (a) が、モノエタノールアミン、ジエタノールアミンまたはトリエタノールアミンから選択される、組成物。

【請求項 7】

請求項 1 から 6 のいずれか一項において、アニオン性界面活性剤 (b) のアルキル基の炭素数が 8 ~ 22 である、組成物。

【請求項 8】

請求項 1 から 7 のいずれか一項において、チオ尿素化合物 (c) における、 $R_1$ ,  $R_2$ ,  $R_3$  および  $R_4$  の少なくとも 1 つが水素を表している、組成物。

【請求項 9】

請求項 1 から 8 のいずれか一項において、化合物 (d) のジアルキルスルホサクシネートのアルキル基は、炭素数が 8 ~ 22 を含んでいる、組成物。

【請求項 10】

請求項 1 から 9 のいずれか一項において、化合物 (d) は、アルカリ金属塩およびアルカリ土類金属塩から選択された化合物である、組成物。

【請求項 11】

請求項 1 から 10 のいずれか一項において、組成物 (d) のグリコールエーテル類が、一般式： $R-O-(CH_2-CH(X))_{(n_3)}-O-R'$  [式中、 $X$  は水素原子または  $CH_2$  基を表し、 $R$  および  $R'$  は、互いに独立して炭素数 1 ~ 5 の炭素鎖を有し、 $n_3$  は 1 ~ 10 の整数である] で表される、組成物。

【請求項 12】

請求項 1 から 11 のいずれか一項において、成分 (a) と、成分 (b) と、成分 (c) と、金属イオン封鎖剤とを含む、組成物。

【請求項 13】

請求項 1 から 11 のいずれか一項において、成分 (a) と、成分 (b) と、成分 (d) とを含む、組成物。

【請求項 14】

請求項 1 から 13 のいずれか一項に記載の組成物を水で希釈した繊維助剤。

【請求項 15】

請求項 14 において、水の総含有量が、75 重量%を超えている繊維助剤。

【請求項 16】

請求項 15 において、化合物 (a)、(b)、(c) および / または (d) で構成される活性成分の総含有量が、0.2 重量%から 25 重量%である、繊維助剤。

【請求項 17】

熱処理される繊維および前記熱処理繊維で構成されたヤーンの破断強度および極限伸度を保持するために使用される、請求項 14 から 16 のいずれか一項に記載の繊維助剤。

## 【請求項 18】

熱処理される繊維、または熱処理される繊維で形成されたヤーン、織物もしくは編物の染色性を保持するために使用される、請求項 14 から 16 のいずれか一項に記載の繊維助剤。

## 【請求項 19】

繊維、または繊維で形成されたヤーン、編物もしくは織物の均染剤として使用される、請求項 14 から 16 のいずれか一項に記載の繊維助剤。

## 【請求項 20】

請求項 17 から 19 において、繊維が合成繊維（好ましくはポリアミド繊維またはアラミド繊維）である、繊維助剤。

## 【請求項 21】

請求項 17 から 19 において、ヤーン、織物または編物が、エラストン繊維を、他の繊維と共に含んでいる、繊維助剤。

## 【請求項 22】

請求項 17 または 18 において、熱処理が 170 ~ 210 度で行われる、繊維助剤。

## 【請求項 23】

請求項 22 において、熱処理が、ヤーン、織物または編物の寸法安定化のために行われる処理である、繊維助剤。

## 【請求項 24】

ヤーン、織物または編物の処理方法であって、

請求項 14 から 16 のいずれか一項に記載の繊維助剤に、ヤーン、織物または編物を浸漬する前処理工程と、ついで、ヤーン、織物または編物の寸法安定性を確保するための熱処理を行う工程と、を含み、

さらに、熱処理後のオプションとして、染色工程を含む、ヤーン、織物または編物の処理方法。

## 【請求項 25】

請求項 24 において、前処理の後に、織物または編物を、パッド・マンゲル処理する工程、を含み、処理された織物または編物は、( a ) + ( b ) + ( c ) および / または ( d ) とから構成される活性成分によって被覆され、前記活性成分の量は、前記ヤーン、織物または編物の乾燥状態の重量に対し、0 . 1 ~ 5 %である、ヤーン、織物または編物の処理方法。